

みるよむわかる生理学 ヒトの体はこんなにすごい

岡田隆夫(著)

兵庫医科大教授・救急・災害医学

中尾篤典

基礎と臨床の橋渡しをしてくれる、 全ての臨床医にお勧めしたい本

医学部の学生の頃に学んだ生理学は、何とも難解で、拒絶にも近い感情を持っていたことを記憶している。本来生理学は医学の中心をなす最も大切な分野であるといっても過言ではないが、医学部の過程の比較的初期に学ぶため、その大切さに後から気づくことが多いように思う。小生もまさにその類に属し、生命科学の基盤であるべき生理学の重要性を最近、学生に臨床医学を教える立場になって再認識している。

岡田隆夫先生により執筆された本書は、もともと薬剤師向けの雑誌に連載されていたものであり、21の臓器・機能別の項より成っている。平易な文章で簡潔に書かれているため、読み始めると一気に読み進めることができるが、小生はあえて、オフィスのソファに横になり、救急患者さんの検査結果が出るまでの待ち時間を利用したり、移動の電車中などを利用して読んでみた。それくらいどこから読んでも、気楽に生体の機能とメカニズムを理解することができる好著である。

美しいレイアウトとともに、コミカルな挿絵も魅力的であるし、ユーモアに富んだ(親父ギャグともいうが)コメントからも、著者の細やかな気遣いが感じられる。また、コラムには、なるほど、と感心させられる著者の体験談なども盛り込まれており、最近発表された最先端の論文に公表されたデータなども実に簡潔に興味を引くように工夫されて引用されている。著者の専門であるところの循環器に関する記述は、さすがにその道の第一人者として造詣の深さを感じる。

本書は非常に知的好奇心をくすぐるので、小生は、もう少し詳しく調べてみたいところに付箋を

貼りながら読んでいったが、読み終えた時には本のほとんどのページに付箋が貼られていたことに気付いた。引用文献などの記載があれば、小生のようにさらに深く学習したいと思う読者により親切であったかもしれないが、英語が並ぶページを省くことで本書が堅苦しさから解放されているのであろう。多数の読者に対する著者のやさしさや心遣いは、こういうところからもうかがい知れる。

長年、医学・看護学教育に尽力してこられた著者ならではの平易な言葉遣いは、実際に大学で教鞭をとるわれわれにとっても斬新で大変参考になる。『生理学』というタイトルの本ではあるが、著者の膨大な基礎医学の知識に基づき、病理学、分子生物学についても理路整然と説明がなされており、本書はまさに「生理学を口語調で語る」本である。

本書は、学生はもちろんであるが、ある程度医学全般を修めた臨床医にとっても、改めて生理学に違った立場から触れ、その面白さを気付かせてくれる。小生は、現在は救急医学で臨床医として多忙な時間を送っているが、前述したように本当に「気軽に」読める本であり、研修医や学生の指導にも大いに役立てたいと思っている。本書は、全ての医師、特に教育に関わる医師に強くお勧めしたい。



●B5/頁184/2015 年
定価：本体 3,200 円＋税
[ISBN978-4-260-02120-3]
医学書院 刊